



並木中等story

令和4年12月6日号

理想を演じるのは・・・

理想の生徒、理想の家族、理想の〇〇などの言葉があります。理想に向かって努力することは素晴らしいことです。それで、良い結果が生まれればなおさらです。

しかし、理想に苦しんでいる人がいることを知っていますか。私の知人は“理想のスプリンター”と大学生の頃に言われていました。一時期はインカレ（大学選手権）にも出場していました。ある時、彼の姿がグラウンドに見えなくなりました。大学に来なくなったのです。電話を掛けても出ませんでした。アパートまで押しかけてみると、部屋から出られなくなっていました。話をすると、“理想のスプリンター”を演じるのが疲れたということでした。彼は“理想のスプリンター”と呼ばれ、それに応えるように努力していたのです。しかし、結果



がついてきませんでした。そのうちに「このままではダメだ。」と自分を追い込むようになり、結果として身体と心が一致しなくなっていました。

彼は、その後、カウンセリングの力で立ち直り、小学校の教員になりました。理想を演じるのは目標程度にするのが良いです。自分に合ったスタイルを通すことが一番生きやすいのではないのでしょうか。

《祝 県高文連自然科学部研究発表大会で3賞独占！》

令和4年度茨城県高文連自然科学部研究発表大会が開催され、科学研究部が生物部門で、最優秀賞（1位相当）、優秀賞（2位相当）、奨励賞（3位相当）を受賞しました。おめでとうございます。